

イヌタデ (犬蓼)

名前の意味：辛み^{いみ}が^{から}あって食用になるヤナギタデ^{またで}（真蓼）に似てい^にるけれども、辛^{から}くなくて役に立^{やく}たない蓼^ただから。イヌという言^た葉は、似^にているけれども役に立^{やく}たないものに付ける。

分類：双子葉類、タデ科、タデ属

(タデ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：ソバ)

好きな場所：日当たりのよい湿^{しめ}った場所

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた（自生^{じせい}）

特徴：ピンク色の粒^{つぶつぶ}々の集まった花序^{かじょ}。茎^{くき}に薄いさやがある

種子の運ばれかた：

花卉の数：5枚、離^{りべん}弁（花びらが1枚ずつ散る）

花の時期：8—10月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：ハナタデは、葉の幅が広く、穂^ほにつく花はまばら。イシ
ミカワやヒメツルソバは、穂^ほが金平糖^{こんぺいとう}のよう。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、

見分けにくく、難易度が高い)



こんぺいとう
金平糖